

# Report from the EDGE

ディスレクシア (Dyslexia) とは……………

知的に問題がなく、聴覚、視覚の知覚的機能は正常なのに、読み書きに関して特徴のあるつまづきや学習の困難を示す症状のことをいいます。

EDGE は……………

ディスレクシアの正しい認識の普及と教育的な支援を目的とした特定非営利活動法人 (NPO) として、2001年10月に認証・設立され、活動しています。

*Nice to meet you*

ADA (アダルト・ディスレクシア協会) 会長  
ドナルド・シュロス氏

黒人、貧しいカリブ生まれ、強度の近視、その上ディスレクシアといくつもの不利な条件を乗り越えて大人の当事者の会 - ADA を幅広く運営しているのはドナルド・シュロス氏 (年齢不詳) である。

2メートル近い姿は遠くからでもすぐわかる。彼にはじめて出会ったのはウェールズ地方で行われた多言語におけるディスレクシアの会議の時だった。EU (欧州連合) の補助金を得て行っている研究の一部としての会議であり、ロシア語、ハンガリー語、ルーマニア語、アラビア語のディスレクシアについての発表があった。会議の後に地元の医師の家でパーティーがあり、その際隣り合わせに座ったのがバリッとした仕立ての良いスーツにローレックスの金の時計をしたドナルドだった。

ドナルドの話にはわかには信じがたいものだった。「貴族院議員のロード・キャリントンもご自身がディスレクシアなので、ディスレクシア当事者として色々な法案を通す力添えをしてくれている。」「企業や行政に働きかけて雇用を確保し、ディスレクシアに優しい勤務環境を整備する方法のセミナーを行っている」「組合用の啓発プログラムを用意している」「電子機器のメーカーから依頼を受けて、大きなマーケットであるディスレクシアの人がモニターになり、使いやすい機器の開発に寄与している」等々。

2005年7月グレートブリテン・ササカワ、スカンディナヴィア・ササカワの助成金を受けて行った私達の訪問の目的は「高等教育と成人のディスレクシアの自立・雇用の状況の視察」であった。イギリスにおける訪問のプログラムはドナルドに依頼した。果たして彼の言っていたことが本当か確かめたかったのだ。用意されたプログラムは4日間の日程では消化しきれないほどのもので、その中から取捨選択しても一人30分くらいの発表であった。その後2日

間でディスレクシアの勤務環境の整備を実践している行政区、消防士の訓練、アクセス・トゥー・ワーク (P 6 参照) など、大変興味深い取り組みを拝見した。

彼の言っていたことはただのコケオドシではなく、本当だった。ロード・キャリントンも参加して今後の法案の行方について話してくれた。

彼のPA (パーソナル・アシスタント) がこっそりと話してくれた。「彼の言うことは時々わけがわからないの。多分彼の頭の中には全部見えているのだけれども、とても全てを言語化することが出来ないからなのね。それをどうにか意図を汲んで進めて行くと、ものすごいことが出来るの。彼があればこのイギリスで成功し、不利な条件を抱えながらもここまで来られたのは、誰にも臆することなく話すことが出来るキャラクターと発想力、そしてあの体の大きさのお陰ね」。

触発されて EDGE でも大人のディスレクシアの人たちを応援する会を催すことにした。(P 4 参照)。

(文責：藤堂)



ひときわ大きいシュロス氏

## 港区との協働

### 特別支援教育個別支援室 10月31日にオープン

個別支援室では一人一人の教育ニーズにあった対応をするために保護者やお子様の教育に携わる方たちからの相談にのり、一人一人のお子さんが本来の力を発揮できるようアドバイスを致します。また、教材や対応方法、関係機関の情報も揃えています。

#### 気楽に相談をしてみましょう！

相談室では「勉強がわからない」「落ちつきがない」「漢字を覚えられない」「縄跳びがなかなか出来ない」など、ちょっとした気になったら気楽に子育て経験者や専門家にご相談ください。状況に応じて関係機関のご紹介や学校との連携を図ります。また、資格を持った学習支援員を派遣することができます。

#### 学習スタイルに合った教材を見つけましょう！

リソースセンターでは様々な学習スタイルに合うよう教材や補助教材をそろえて、試して見られるようにします。また、音声化した図書の貸し出しも致します。

個別支援室は月曜から金曜の10時から5時まで開いています。専門の相談日は週二日の予定です（ご予約ください）。お問い合わせ先：EDGE事務局

## 学 習 支 援 員

港区との協働の一環として港区からEDGEが受託した学習支援員講座を開講しました。

50名を超えるお問い合わせをいただきましたが、聴講生を含め30名を越える方が猛暑の下でクーラーのあまり効かない会議室での授業にもめげず、熱心に受講しました。講座内容は下記の通りです。11月以降、修了生は区内の小中学校への派遣が予定されています。なお、年明けに同様の講座開講を予定しています。詳細はホームページおよび11月11日号の「広報みなと」に掲載予定です。

#### 講座内容（カッコ内数字は時間数）

- オリエンテーション（コースの狙い、特別支援教育に関する歴史、現状、仕組み、港区の取り組み 1）
- 概論（軽度の発達障害の児童の特徴と対応について 1、LSA（イギリスの学習支援員）としての体験談 1）
- LD疑似体験、LDの記憶・認知の特性（LD疑似体験の後、ワークショップ 4）
- カウンセリングマインド（コミュニケーションのコツ、聞くということ、自分を知るなど 4）
- ソーシャル・スキル・トレーニング（狙い、スキル、基本的な考え方など 2）
- 特別支援教育に活かす応用行動分析（環境認知の仕方、コミュニケーションの仕方、学習の仕方などを知り、子どもたちが持っている力を発揮できる学習環境の作り方 2）
- 教育の現場（幼稚園、小学校、中学校、高校などそれぞれの段階での発達の違いと対応について 各1）
- 高等教育と就労（入試、入学後の配慮、就労に向けての支援 1）
- 当事者の声（保護者、当事者から学校教育に求められる対応と支援について 各2）
- 検査、診断、スクリーニング（軽度の発達障害に使われる各検査についての簡単な説明 1）
- 補助教材・支援ツール（概要、使用法 1）
- 教科の支援（違うということ、遅いということ、読み書きの困難を軽減する授業の工夫、フォニックス指導、教材の掲示他 6）
- ロール・プレイング（これまで学習したことを元に教員、保護者との関わり方をロール・プレイングで学ぶ 4）
- 実践的指導法（養護学校の低学年で使われる教材の紹介、活用法 1）
- 実習（区内養護学校、小中学校の通級、心障学級の3箇所をグループで見学後、グループディスカッション 12）



「白熱するワークショップ」

# 学習支援員養成講座を受講して

寺川 徳子

8月から9月にかけて14回に亘る第一回学習支援員養成講座を受講した。EDGE初めての試みとはいえ、学習支援を必要とする子供たちを少しでも助けようとする思いに溢れた講座内容がしっかり組み込まれていた。朝10時から午後3時まで熱い思いを伝えんとする講師の先生方の下に受講生30数人もそれぞれの思いを抱えながら真剣に講義を受け、また考え、どんな支援が出来るかを語り合い続けた。手助けを必要とする子どもの実態を知るということに留まらず、能力の様々な人間の存在を肯定して受け入れ、足りないところを互いに補い合って生きて行くということの大切さを改めてかみしめていた講座だったように思う。各々に生まれ持った力を、より良く伸ばし且つその存在をけなされることなく生きていく…そんな温かさは、複雑な世の中になればなるほど許され難きことになっているようだが、それでいいのかなという問いかけがしょっちゅう感じられる講座だった。

LD疑似体験に始まって幼稚園、小学校、中学、高校の現場の先生の立場、保護者や大人になった当事者の声…色々な立場から支援の必要性が問われ続けた。一方で、如何に支援をしていったらよいのかをカウンセリングの先生や学校の先生たちが教材への工夫を具体的に示しながら、我々実習者にも考えさせる時間をたっぷり設けて下さった。いくつかのグループに分かれての話し合いの時間は、世代を超えて学生時代とは違った親しさを生んでいたように思う。それは子どものために何かを得、それを還元したいという共通の基盤があったからこそではないだろうか。最後に区内の小学校の通級、心障学級、養護学校での実際の授業場面を見学した。先生を手助け出来るような事は多々あった。先生との関わりを気遣いながら子どもを支援することの難しさを感じつつも、それをさりげなくすることが我々に課せられていくことなのかもしれないと思うことしきりである。

# 学習支援員養成講座講座の感想

小水 理江

私がこの講座を受講したのは中一の弟がディスレクシアだったことがきっかけでした。私自身、子どもが好きで、将来子どもに関わる何かをしたいという思いもあり、受講を決めました。受講する中で、学校の先生や保護者の方々から話を聞いたり、障害児学級、通級、養護学校の見方を通して現状を知り、理想と現実の大きなギャップを感じました。それと同時に、もっと知りたい、わかりたいという気持ちが強くなっていきました。子どもたちへの直接的なサポートはもちろんですが、社会の仕組みから変えていかなければならないと強く感じ、そのことでも動いていきたい気持ちが私の中に生まれました。

感性を養い、それを生かせる環境を私たち大人が作っていかねばならないと思います。先を創ることもそうですが、まずは私自身、自分の個性を生かし、いつも輝いていられるように心掛けていきたいと思っています。

この講座を通して出逢えたEDGEのスタッフの方々、素晴らしい講師の方々、そして一緒に学んだ方々、どうもありがとうございます。来年には二期もスタートするので、次の方々たちが、もっと幅広く活躍していけるよう、私たちから先を創っていく動きをどんどんしていこうと思います。たった二ヶ月でしたが、自分の心の変化に驚いています。これからたくさんの人たちに会い、学んでいけることが楽しみです。本当にありがとうございました。

子どもたち一人一人の持っている個性や資質をわかり、

## DAISY 講習会を開催します

視覚に障害を持った、もしくは普通の印刷物を読むのが困難な人々のために、従来から朗読を吹き込んだカセットテープが使われていました。DAISYはカセットに代わるデジタル録音図書のための情報システムで、12カ国の正規会員団体が構成されるデイジーコンソーシアムにより開発と維持が行われている国際標準規格に従っています。

この度、EDGEは日本で開発と普及を推進している(財)日本障害者リハビリテーション協会の要請を受け、DAISY講習会を開催いたします。内容は、オーサリングソフトを使ったDAISY図書の製作を習得します。受講生は協会やEDGEの依頼によりDAISY図書の作成を行っていただく予定です。EDGEでは港区の学習支援員に活用していただくため、教科書のDAISY化を進める方針です。

日程：第1回 2005年11月8日(火)～10日(木) (定員に達したため締切)

第2回 2005年11月30日(水)～12月2日(金)

時間：第1・2日 10～17時 最終日 10～15時

場所：第1回 みなとNPOハウス、第2回 港区浜松町 港区こども家庭支援センター

申込：EDGE事務局(内田)まで

## 館野ワークショップ「記憶の話」

8月7日(日)、3月の好評に続き、エッジ会員館野智恵子さんによるワークショップを行いました。参加者は親子5組、見学3名で実施されました。まず、平成に入ってから総理大臣の名前を記憶する方法を教わりました。闇雲に順番に覚える方法もありますが、けっして万人共通ではありません。まして社会が苦手で、覚えるのが嫌いだったら、名前をただで、逃げ出したいくなります。館野さんは簡単な物語を作って、覚える方法を伝授してくれました。平成になってからの歴代総理の覚え方です。

「右脳で宇野」「海辺を歩いて海部」「お宮を見つけて宮沢」「お宮の近くに細い川で細川」「鳥が休んでいました。大きな羽を伸ばして羽田」「羽田は村の山にありました。村山」「山には大きな橋がかかっていた。橋本」「ブチ犬に会って小淵」「犬が迷い込んだのは森」「森の中には小さな泉がありました」

宇野 海部 宮沢 細川 羽田 村山 橋本 小淵 森 小泉

毎日、学校に登校するとき、道順を覚えていないと行くことができません。もし、覚えられなければ、難しく考えないで、簡単な物語にすると、記憶の助けになります。館野さんは楽しく、このことを証明してくれました。ある部分の記憶を思い出すと、つながりから全体を思い出せます。お子さんたちには少し難しい問題だったかもしれませんが、お母さんと一緒に夢中で復唱している姿が見えました。どちらが、先に覚えられるのでしょうか。

その後、一人一枚画用紙を配り、マインドマップの描き方を教わりました。今回の課題は「蛍」でした。参加者も蛍を見たことがない人々も居て、うまく描けるか不安でし

たが、クレヨンを使って、個性的なものが出来上がりました。真ん中に蛍を描き、周りに枝を作るように関連情報を加えていきます。「環境」「夏」「食べ物」など、次々に関連したことが浮かんでくるから不思議でした。これは必ずしも、文字情報だけではありません。ディスレクシアで文字情報より、絵や記号のほうが記憶しやすい人々は堂々と使えます。覚える方法は人それぞれであっていいのではないのでしょうか。この作業が終わる頃には参加者の表情にリラックスした安堵感が見られました。

最後に、「ありがとう」の効用を学習しました。どんなことを聞いても、反論せず、「ありがとう」と言って笑顔で答えると、雰囲気や和むことをわかりました。「例えば」相談をしたとします。自分が痩せたいと考え、何人かの友人に聞きました。

「私は痩せたい」「運動をしたら」(友人男A)「ありがとう」  
「私は痩せたい」「野菜を多く食べたら」(友人女B)「ありがとう」

「私は痩せたい」「断食したら」(友人男C)「ありがとう」  
「私は痩せたい」「一日2食にしたら」(友人男D)「ありがとう」

「私は痩せたい」「そばを主食にしたら」(友人女E)「ありがとう」

ありがとうと言いつけると、「相談している側」も、「答えている側」も、お互いに相手の気持ちやだんだん穏やかになることが理解できました。今後の親子関係が円滑になることでしょう。すばらしい夏休みのひと時でした。

(文責：柴田)

## 第一回ディスレクシア当事者の会

目に見えない困難で悩んでいる成人ディスレクシアの人々はけっして少なくありません。その当事者に夢を与え、自信を持って社会貢献の担い手として活動できることを願い、「溜まり場」を企画しました。第一回当事者の会は8/9(火)18:00からEDGEの事務所で行いました。予想以上の盛況で、当事者8名、アドバイザー6名、ゲスト2名の計16名の参加者がありました。LSA講座の講師をしていただいた館野さんの提案で、参加者一人一人、自分の「長所」を述べ合うことになりました。なかなか、自分自身の長所が見つけれず、戸惑った人もいました。小さなことでも良いのです。「朝早く起きられる」とか、「運がいい」「料理ができる」などは立派な長所なのです。自分には何もいい所がないと落ち込んでいる人々も本当はたくさんいい所があるのです。なにやら、自然に自信がわいて

きました。この集まりでは、集中力が切れたら、途中で自由に席を外せるようにしました。みな、LD、ディスレクシアに理解がありますので、全体の雰囲気を乱すことはありませんでした。一通りの自己紹介が終わると参加者の顔が輝きだしました。

雰囲気がリラックスすると、様々な体験談が出てきました。「漢字がなかなか上手く書けなかった」とか、「計算が苦手で時間がかかった」など、当事者の困難は様々でした。普段、日常生活では困っていないように見えて、実はけっこう苦しんでいたのです。人前では出来るふりをしていただけでした。最近、小中学生であれば、相談やサポートを受けることができますが、成人にはなかなか機会がないのが現状です。真面目にだれかに相談を持ちかければ、「冗談を言うな」と軽くあしらわれます。職場や周りの人々に、

「どうやってLD、ディスレクシアの症状を理解させられるか」が話題の中心になりました。マスコミなどで話題に上がり、一時的に有名になっても、その時期が終わってしまったら、忘れ去られてしまいます。それでは意味がありません。地味に少しずつ周囲を巻き込みながら、少しずつ広げていくことが大切であるという意見で盛り上がりました。焦ってはいけないようです。

言いたいことを言った参加者の顔にどことなく、一仕事終えた達成感が感じられました。

このような会を通じて成人ディスレクシアの存在が認知され、活躍の舞台が広がることはすばらしいことです。わ

れわれ当事者も、出来ることから始めることが大切です。主催者も、参加者に余り負担のかからない範囲で、会を続けることが重要なのではないのでしょうか。今回LD、ディスレクシアであると自ら名乗り出て、この会に出席して下さった当事者の皆さんの勇気に感動いたしました。それから、ご参加いただいたアドバイザーの皆さんのサポートは今後の励みになりました。支援者と当事者同士結びつきを今後続けることを約束して終了しました。出来れば、二ヶ月に一度ぐらいの割で会合を行なう予定でいます。興味のある方は担当柴田にご連絡を！

(文責：柴田)

## 親子タッチ・タイピング講座を実施しました

「思ったことをそのまま文章に出来たらーラクラク親子タッチタイピング講座」を2005年6月18日に開講しました。一字が下手で、「なんて書いてあるのか分からない」と言われる

－書く内容を一行に収めるのに苦勞する  
－言葉は浮かぶが、どんな漢字を書いたらよいかわからなくなる

－考えていても、文章になかなかまとまらない  
－書いた文章を直すのが重なり、汚くなってしまう

このような悩みやもどかしさをお持ちのお子さん(大人も)少なくないと思います。ちょっとしたトレーニングをすれば、コンピュータを活用してこのような悩みを解消できます。

キーボードを見ずにパソコンの画面を見ながら操作することをタッチタイピングと言います。このタッチタイピングの習得法について独自のノウハウをお持ちの増田忠先生をお招きし、習得講座を開講しました。講座は、親子で参加いただき、2時間で習得法の講義と実習を行い、その後は自宅で自習し、10時間程度で習得するという内容です。

当日は5組の親子が参加し、お住まいも川崎、浦安、蓮田、飯能、山形と遠くからお見え頂きました。パソコンのWordを使い、フォントを上げて大きな文字が表示できるように設定し、講義は始まりました。まずは数字から、右手の指の動きを覚えます。指に色の異なる丸いシールを貼り、「青の指」「赤の指」と先生から指示が出ます。キーボードの良く使う部分は3段なので、中段に指を置き、手をなるべく動かさずに指を上や下に動かす練習をします。文字の練習に入ると、上下だけでは足りないで斜めに指を伸ばし、さらに左手も使います。お父さんやお母さんとお子さんが交互に練習(体験)しながら

2時間の講義は終わりました。

終了後、先生が参加者とのメーリングリストを開設し、バーチャル補習授業が1ヶ月行われました。毎日、先生から解説や練習問題のメールが届けられ、自宅で自習し、質問をメールするというものです。

<私自身は両手を使って打ってはいませんが、独学なので少し下を見たりしながらたまに空で打つと大体の位置は覚えてはいるのですが指で確実に覚えていないので打ち間違いが多くなって、イライラするような状況です。この際、タッチタイピングを覚えられればいいのです。が・・・。><大丈夫ですよ。とにかく、指とキーの対応をしっかりと決めて、自分なりの運指が身につけば、ローマ字入力には本当に簡単ですから。>・・・というように。

1ヵ月後にはくみなさん 増田先生 こんばんわ。タッチタイピングを忙しさに紛れてサボっていたらもう今日という日を迎えてしまいました。タッチタイピングは今までの独りよがりのやり方に向き合い自己反省をせまられるものでもあり、なかなかつらい所がありました。ほんの少しずつですが進歩していることは感じられています。このごろは下手だった主人の方が真面目にやり、私よりも劇的に変化を遂げており、喜びを感じているようです。改めてこの講座を企画して下さったEDGEの皆様と講師をお引き受け下さり、また毎日メールでご指導くださいました増田先生に、御礼申し上げます。先生のパワーには主人共々いつも驚嘆！させられました。子どもあまり練習しませんが、手の形はそれらしく、一応両手で打っております。この夏休みに習得できるとよいのですが・・・。では、どうか皆さんお元気で。>というメッセージで、バーチャル講座も終了しました。

(文責：内田)

7月22日（金）～7月31日（日）にかけて、上野一彦先生（東京学芸大学教授）、品川裕香さん（ノンフィクションライター）及びEDGEスタッフで、英国・スウェーデンの視察旅行に行ってきました。

イギリス及びスウェーデンにおけるディスレクシアの支援、特に高等教育における支援と就労支援について見て廻り、有意義な視察となりました。

## 今回の主な訪問先

### ●英国

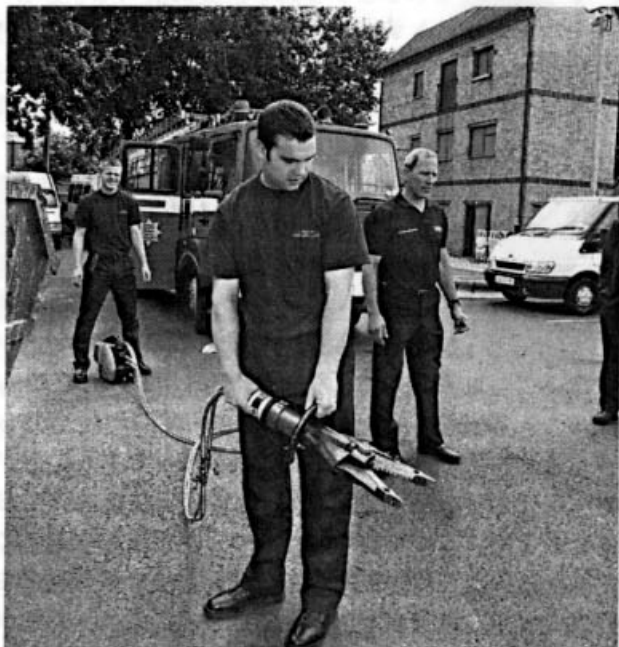
#### ADSHE（高等教育における支援員協会）

大学における、ディスレクシアのサポートに関する現状の見学をしました。

#### ADA（Adult Dyslexia Association）のアレンジによる視察

##### ■消防署

火災の消火活動は、周りの状況把握や咄嗟の判断などが必要なため、字が読みづらいディスレクシアにとっても活躍できる可能性がある職場です。また、子どもたちの憧れの職業ということもあり、ディスレクシアが活躍できる可能性を伺ってきました。



消防士は憧れの仕事

##### ■職業安定所（アクセス・トゥ・ワーク）

ディスレクシアの人たちが就労する際に与えられるサポートの種類や、ディスレクシアの人が実際に仕事に定着するまでのサポート方法について話を伺いま

した。

英国と日本についての意見交換会（London South Bank University）にて

英国のロード・キャリントンや支援を実践している専門家と活発な意見交換を行いました。もう一ヶ所、実際の支援活動をおこなっている行政の一部署の見学をしてディスレクシアでありながら法規の説明を一般の方に行っている方のお話を伺いました。

### ●スウェーデン

#### FMLS（NGO）

スウェーデンでディスレクシアのサポートをしているNGOで、スウェーデンのサポートの現状と現在の状況に至るまでの啓発活動について、意見を伺いました。

#### 職業安定所（政府機関）などでの視察および意見交換

スウェーデンでは、ディスレクシアのための部門を設けて就職に至るまでのサポートを行っていました。その部門の方たちと、法律・予算・サポート方法など意見交換を行いました。

（文責：堀田）

## ◆報告会のお知らせ◆

「英国とスウェーデンのディスレクシアの高等教育と就労について」

今回の視察についての報告会を、11月に実施いたします。詳細は追ってご案内いたします。

発表者

上野一彦 日本LD学会会長

品川裕香 ノンフィクションライター

藤堂栄子 NPO法人EDGE代表

柴田章弘 NPO法人EDGEスタッフ ディスレクシア当事者

堀田隆佳 NPO法人EDGEスタッフ

日程 2005年11月14日（月）

時間 18：00～

場所 みなとNPOハウス 大会議室

人数 30名

お問合せはE-mail：info@npo-edge.jp

又は電話：03-5413-3356（担当：柴田）



# 愛をはこぶ人キャンペーン2005年

～ほんの小さなきっかけで、子どもたちに大きな未来を～

「愛をはこぶ人キャンペーン」(実行委員長 上野一彦 LD学会会長)はLDとその仲間たちの啓発と支援を目的として2003年から活動しています。2005年の活動の一環として、ディスレクシアの画家マッケンジー・ソープ氏をお招きし、ワークショップとレセプションを行ないました。EDGEは事務局と後援をしています。10月4日現在、キャンペーンのイベントは続いています。これまでに行われたイベントをいくつか紹介します。

## 【ワークショップ】

### ◆マッケンジー・ソープ 福岡ワークショップ

日時：9月23日(金・祝) 10:15～12:00

場所：ウェルトばた 戸畑駅前(福岡県)

協力：北九州LD親の会「すばる」

今年2度行うワークショップの1回目を福岡県北九州市戸畑区で行いました。この日は、ソープさんが朝一番の飛行機での到着で、若干遅れてしまいましたが、待っている子どもたちが窓から見える電車を見ながら、「この電車がなあ？」と話している姿が印象的でした。

やっと到着したソープ氏は、「僕も4時に起きて東京から来たからみんなも頑張ろう」と休む間もなく子どもたちとワークショップをはじめます。子どもたちも、集中して机に向かい、短い時間でしたが楽しんでくれたようです。

### ◆マッケンジー・ソープ 東京ワークショップ

日時：10月1日(土) 10:00～12:00

場所：港区子ども家庭支援センター予定地(浜松町)

福岡に続き2回目のワークショップは東京で開かれました。

出席した子どもたちは最初はやや緊張気味でしたが、画用紙に向かって絵を描き始めるととまどいながらも次第にのびのびとした表情になって手を動かしていました。

お絵描きの後は記念写真を撮り、ソープさんのサインをいただいてワークショップは終了、ソープさんは「また来年！」とおっしゃって会場を後になさいました。

なおワークショップの作品は、2007年にソープさんの作品と一緒に絵画展として公開される予定です。

## 【レセプション】

### ◆愛をはこぶ人キャンペーン マッケンジー・ソープ氏歓迎レセプション

日時：9月26日(月) 18:00～20:00

場所：みなとコミュニティーハウス

協力：NPO法人テクノシップ

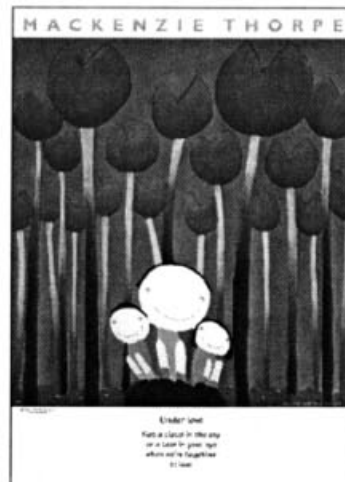
ソープ氏とソープ氏の絵画約20点を囲んで、レセプションパーティーを行いました。

今回は個人が所蔵されている絵画も提供していただき、なかなか見ることの出来ない作品にも触れることが出来たパーティーでした。

それぞれの絵に込めた思いを話していただいたり、画集にサインを貰ったり、ソープ氏と参加者が「愛をはこぶ人キャンペーン」というテーマのもとに、楽しく過ごすことが出来ました。

## 【ポスターを制作しました】

キャンペーン限定のポスターを制作いたしました。1点6,000円で、販売しております。詳しくは、愛をはこぶ人キャンペーンwebsite(<http://www.aiwohakobu.jp>)まで



Under love

## 【軽度発達障害啓発パンフレット作成】

軽度の発達障害の啓発パンフレットを作成しました。4色刷りで16ページのものです。入門編としてご活用下さい。

## 【ディスレクシアとソープさんについての番組が放送されます。】

ディスレクシアの画家マッケンジーソープさんへのインタビューとワークショップの取材を通して困難さを乗り越えること、子どもたちへの「愛」についての番組です。

また、同じ日にソープ氏のインタビューも収録されました。

11月1日(火)

午後8時NHK教育TV(福祉ネットワーク)にて放送を予定しています。

11月7日(月)

午後1時20分NHK教育TVに再放送されます。

キャンペーン

HP:[www.aiwohakobu.jp](http://www.aiwohakobu.jp) e-mail:[mail@aiwohakobu.jp](mailto:mail@aiwohakobu.jp)



## 日本発達障害ネットワーク 設立記念フォーラム

趣旨：本年12月3日に、従来制度の谷間に置かれ支援の対象となっていなかった、あるいは適切な支援を受けられなかった、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害のある人及びその家族に対する支援を行うと共に、発達障害に関する社会一般の理解向上を図り福祉の増進に寄与することを目指し、発達障害関係の支援団体が発起人となり、日本発達障害ネットワーク（JDDnet）を設立します。

この発達障害ネットワークの設立を記念しフォーラムを開催します。発達障害に関する一線で活躍する研究者、専門家による講演、行政による施策解説、当事者トーク、テーマ別のシンポジウム等多くのプログラムを企画しました。

NPO法人EDGEの藤堂は企画シンポ 1（教育）でシンポジストになります。

日 時：平成17年12月3日(土)  
午前10時30分～午後4時50分  
会 場：成蹊大学 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1  
会 費：フォーラム参加費 事前申し込み 3000円  
(当日4000円)  
懇親会参加費 事前申し込みのみ 5,000円  
定 員：600名  
お問合せ先：社団法人自閉症協会 JDDnet事務局  
電話：03-3545-3380  
Fax：03-3545-3381  
e-mail：jddnet@mbn.nifty.com

## 新着図書

- 「ぼくは、ディスレクシア」 リサ・ワインスタン 著  
吉田 利子 訳  
河出書房新社 2005/9/30 ￥2,000  
☆ 解説にかえてを会長の藤堂が書いています。
- 「心からのごめんなさい」 品川 裕香 著 中央法規  
2005/7/20 ￥1,900
- 「子どものころがうつになるとき」 デビッド・ファスラー  
/リン・デユマ 著  
品川 裕香 訳 エクスナレッジ 2005/7/20 ￥1,600
- 「詞画集一万華鏡」 別宮 良 著 2005/3
- 「漢字と日本人」 高橋 俊男 著 文春新書 文藝春秋  
2001/12/15 ￥720
- 「通常学級での特別支援教育PDCA」 拓植 雅義 編集  
教育開発研究所  
2005/8 ￥2,500
- 「『気になる子』の保育と就業支援 幼児期における  
LD・ADHD・高機能自閉症等の指導」  
無藤 隆・神長美津子・柘植雅義・河村 久 編集 東洋館出版  
社 2005/9/5 ￥2,800
- “MACMILLAN CHILDREN'S DICTIONARY” Macmillan  
Education 2001
- “Mind Maps for Kids” MAX YOUR MEMORY AND  
CONCENTRATION Tony Buzan ThorosonsElement.com  
2005
- “Mind Maps for kids” REV UP REVISION  
Tony Buzan ThorosonsElement.com 2004
- “Waterstone's Guide to Books for Young Dyslexic  
Readers”  
THE DYSLEXIA INSTITUTE
- “Dyslexia and Foreign Language Learning”  
Elke Scheider and Margaret Crombie 2003

## 事務局

### 最近の活動紹介

7月22日～31日 英国・スウェーデン視察旅行  
8月7日 親子ワークショップ（記憶力）  
8月8日 LSA（学習支援員）育成講座開講  
8月9日 第一回ディスレクシア当事者の会開催  
9月28日 LSA（学習支援員）育成講座修了式  
10月12日 品川区LD疑似体験  
10月17日 スクールカウンセラー講演  
10月19日 港区赤坂中学LD疑似体験

### 今後の予定

10月27日 大田区福祉講座講演  
11月1日、7日（再放送）NHK教育テレビ「福祉ネット」でディ  
スレクシアに関する放送  
11月8日～10日 第1回DAISY講習会  
11月14日 英国・スウェーデン調査報告会  
11月29日 港区スクールカウンセラー講演  
11月30日～12月2日 第2回DAISY講習会  
12月3日 JDDnet設立記念フォーラム・成蹊大学

Report from the EDGE - 第9号 -  
2005年10月25日発行  
発行者 NPO法人EDGE  
発行責任者 藤堂栄子 東京都港区六本木4-7-14  
みなとNPOハウス4F  
Tel.03-5413-3356 Fax:03-5413-3358  
編集 NPO法人EDGE事務局  
印刷 株式会社 信英堂  
http://www.npo-edge.jp  
email:info@npo-edge.jp